

リハビリテーション学院にて国立病院機構本部主催専門研修開催さる

当リハビリテーション学院にて本年1月20日(水)～1月22日(金)に国立病院機構の病院における理学療法士・作業療法士20名(臨床経験3年から19年)を対象に「長期入院患者のADL向上に関する研修」が行われました。この研修の目的は国立病院機構で担うべき疾患である重症心身障害児者、神経難病、筋ジストロフィーに対する理学療法・作業療法の指導者育成を行うことや医療の質の向上を図ること、重症心身障害児者、神経難病、筋ジストロフィー患者のいる国立病院機構の病院において良質な理学療法・作業療法を実施するため治療根拠のある方法を展開すること、プログラムの標準化を図り情報発信していくことにあります。

研修会では各疾患についてのエキスパートの講師にご講演頂き講義形式、実技形式、グループ討議形式の様々な形態で実施して頂きました。グループ討議では日頃の臨床を実施して行く上での悩みへの解決策も含め各疾患における支援体制のあり方についても活発に話し合わせ、講師からも的確なアドバイスを頂きました(写真1、2)。本年度は8月末に実施する予定であります。なお、本研修会は平成26年3月まで実施していくことになっております。このように当リハビリテーション学院は国立病院機構病院144施設等における1300人あまりの理学療法士・作業療法士の卒後研修を担っております。



(写真1：グループ討議)



(写真2：閉講式集合写真)